

入選

心と心の中での真の言葉

香川県 国分寺中学校 二年

山下 花音

目の前で、耳が聞こえない方が困っています。私たちには、何ができますか。「助けてあげる」。そう思った人たちが多いと思います。口では、簡単に言うことはできます。しかし、現実はそうではありません。そんな簡単な言葉では、言い表せないと思います。

例えば、駅の改札で見て見ぬふりをして過ぎ去る人、お辞儀だけして立ち去る人が目立ちます。過去の自分もそうでした。

しかし、夏の旅行で一步踏み出した経験が自分を変えました。私は、電車に乗るのが大好きです。特に瀬戸大橋を通過する電車の窓から、瀬戸内海の島々を見るのが大好きです。

母と夏のある日、岡山県的美観地区に向かっていました。岡山駅に着き、ある女の子に出会いました。女の子は制服を着ていて、地図を持ち何度も何度も電光掲示板を確認していました。私は、道に迷っている観光客なのかな、と思い「何かお困りですか。」と、気軽に話しかけてみました。

すると、女の子は突然手話を使って話しかけてきました。私の頭は真っ白になり、だんだん冷や汗が流れ出してきました。心臓もバクバクです。周りの人に助けを求めようとしても、誰も助けてくれる気配はありません。冷たい視線に見えました。その場から逃げ出したい気持ちと、助けなければならない気持ちが交錯しました。

自分とはとっさに、持っていたペンとノートを使い、必死に何度も何度もコミュニケーションをとりました。すると最後、女の子は「ありがとう。助かりました。」と、ノートに書いてくれました。女の子は、オープンキャンパスに行くために、大学の行き方を迷っていたのです。「じゃあね。」ノートにそう書くと、女の子は笑顔で手を振って行ってしまいました。

私は、「伝わった」と、これまでにない嬉しさと達成感が込み上げてきました。私は、人の役に立つためには、言葉を使うことこそが大切なのだと思っていました。しかし、ときには言葉がなくても人の役に立てることもあるのだ、と実感しました。

「言葉が通じないから、自分には助けることはできない。誰かに任せれば大丈夫である。」

こういった考えは、間違いなのだと知りました。手助けをすることによって、自分にしかできない、心と心の中での真の「言葉」があるのだと思います。必死に伝えようとする姿勢が大切です。これを、夏の旅行で体験することができました。

私は、この経験の後、もっと今後も人の役に立ちたいと、手話に興味を持ち勉強しています。

「ありがとう」。この言葉の文字だけでは、相手が今どんな気持ちなのかわからない。しかし、手話を使うことは、相手の気持ちも感じ取れることに魅力を感じています。手話を使い多くの人の役に立ち、喜んでもらえることが私の今後の目標です。

皆さんも、明日の生活の中で、一步を踏み出してみませんか。